

未来まちづくりニュース

2021年3月27日発行
柏ビレジ自治会
未来まちづくり部
活性化プロジェクト

4



コロナ禍をきっかけにIT化が加速された柏ビレジ自治会館。通常の会議に加え、オンライン会議もできる環境に整備されました。

TOPICS

- 会長メッセージ
- 朝の見守り活動
- クリーニング代替手段の検討
- 柏ビレジ自治会～事務局の業務効率化・IT化改革
- 柏ビレジの交通対策（第二弾）
- 柏ビレジに「24時間対応の訪問介護看護サービス」を導入したい（第二弾）
- 柏ビレジグランドデザインについて

■ 会長メッセージ

会長 シュビンドラー 千恵子



ビレジの皆様にはいつも自治会運営にご協力いただきありがとうございます。

本紙の発行元は自治会・未来まちづくり部・活性化プロジェクトです。当プロジェクトが、ビレジ活性化のために実質的なさまざまな活動を行っています。住民活動だけでは進まないことも多く、交通問題は行政の理解と協力なしには成し得ないため、柏市の交通不便地域への対策検討のタイミングとあわせて、柏市全体とビレジ地域との2つのアンケートを実施しました。また、高齢化率がどの地域よりも高いビレジにおいて老後に介護が必要になっても自分の家で住み続けられるような取り組みも始めました。こちらでもやはり行政への訴えが必要でありパブリックコメントを出し、スタートを切ることができました。コロナ禍においてもアクティブに活動してきたので、少し岩が動いてきたように思います。しかし、柏市と共に取り組むためには、コミュニティバスを運行させるにせよ、介護サービスを導入するにせよ、皆様に利用していただくことが大前提です。特にバスの運行は利用率が重要なポイントです。それには通勤通学者を増やすこと、つまり現役世代へのアプローチも必要です。引き続きご協力とご声援をお願いいたします。

■ 朝の見守り活動～安心で安全な“まち”でありたいとの願いを胸に～

安心な街づくり

施策担当リーダー 村上 伸二



昨年、花野井小学校で開催された「朝の見守り活動感謝の会」で挨拶

今年度も無事故で1年を終えることができました。赤信号に変わりかけの交差点を、高速で通過する車も見かけなくなりました。細やかながら子ども達の安全に寄与できたと嬉しく感じています。一方、担い手不足から下校時の見守りには手がついていません。他のボランティアが第一公園脇の交差点で実施している見守り活動も要員手配が難しくなっていると聞きました。担い手不足は他のさまざまな活動も同じでしょう。この活動を始めて3年経ちました。子育て世代向けアンケートの結果を受け、世代間互助活動の一つとして始めたこの活動ですが、当時とは状況が異なっています。コロナ過で自粛生活を強いられる中、今求められる互助・共助活動は何か、を改めて考えてみる機会とも感じています。今年度は次の方々のご協力をいただきました（敬称略）。渥美満美、岡村脩二、

組橋怜子（以上、自治会役員）、飯野瑞穂、澁田夏子、村松貴子（以上、子ども会）、佐々木裕久、野村芳守、森克彦（以上、柏ビレジテニスクラブ）、中村繁夫、森下紀美子（以上、新樹会）、小川喜成、加藤正俊、砂川高志、宮崎泰雄、芳之内莊平（以上、自治会役員OB）、大野達雄、村上伸二（以上、活性化プロジェクト）。無事故で終えることができたのは、皆様のおかげです。ありがとうございました。

■ クリーニング代替手段の検討～クリーニングサービス情報の提供

便利な街づくり

メンバー／高柳キミエ（施策担当リーダー）・三石紀子・松尾貴子

「クリーニング・サービス店情報」

店名	住所	電話番号	営業時間	特徴
クリーニング店A	〒125-0000 千葉県市川市	0476-XXXX-XXXX	10:00～18:00	ドライクリーニング
クリーニング店B	〒125-0000 千葉県市川市	0476-XXXX-XXXX	9:00～17:00	水洗クリーニング
クリーニング店C	〒125-0000 千葉県市川市	0476-XXXX-XXXX	10:00～19:00	コインランドリー
クリーニング店D	〒125-0000 千葉県市川市	0476-XXXX-XXXX	10:00～18:00	洗濯代行サービス

柏ビレジ住民の皆さんに配布された
利用可能なクリーニング・サービス店情報

柏ビレジ商店街のクリーニング店が、2018年7月に撤退しましたが、それ以降の東急コミュニティによる誘致活動にもかかわらず実現できず現在に至っています。そこで誘致活動と並行し、代替手段として①クリーニング店 ②宅配クリーニング ③コインランドリー ④洗濯代行サービスといったクリーニングサービスの種類ごとに情報の収集活動を開始。サービス内容をチーム内で分担して電話、WEBで調べたり、現地に行って実際に使ってみるなどして調査した結果をもとに、種類別の店舗名、住所、営業時間、定休日、電話番号、利用方法、特徴の他、店舗マップ等々の資料を作成しました。できれば料金も入れたかったのですが、紙面の制約のため断念。代わりにホームページを閲覧できるよう掲載されている各店舗のQRコードを設置しました。こうしてまとめた資料は2020年12月の回覧で住民の皆様へ配布することができました。当資料が皆様の生活様式に合わせたクリーニングサービスを利用する際の一助になれば、と願っています。

■ 柏ビレジ自治会～事務局の業務効率化・IT化改革

街づくりの核

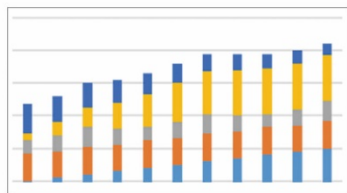
施策担当リーダー シュビンドラー 千恵子



「まちづくりの核」としての活動拠点
～柏ビレジ自治会館～

事務局では今年度新しく事務員を招き、新しい視点で事務処理の効率化、合理化を図って参りました。入退会用紙等の申込書類をカーボン式にし、一度の記載で複数の部署に共有する帳票類の改善といった小さな改革から始め、事務局と2F書庫の大量書類の断捨離をし、文書による保管期限を決め、電子的に保存管理する等、当たり前のことですが手付かずだった文書管理を始めました。また、窓口業務と事務業務とを分離し、セキュリティと効率性を高めました。そして、事務員や役員の負担軽減の為、利用が少ない水曜日を定休日になりました。今年はコロナ禍でイベントを開催しなかった代わりに、IT改革を一気に進めることができ、以下の通り予定していたプロジェクトは概ね完了しました。

会計のIT改革



まず経理事務の改革です。これまで使用していた会計ソフトは個人向けソフトで複式簿記ではなくわかりづらいものでした。そこで、個人事業主から大手企業まで幅広く利用されている会計ソフトを新たに導入。その結果、月次試算表として貸借対照表、損益計算書が作成できるようになったため、現状把握が容易になり決算書の作成も簡単になりました。また、このソフトは昨年度との比較やその勘定科目が全体に占める割合表示、グラフ化等、会計の分析ができ、資金の状況が一目でわかるようになりました。組織の屋台骨である会計事務を確立し、かかる手間の効率化を図りました。

柏ビレジ自治会管理システムの構築



「柏ビレジ管理システム」のPC画面

事務局には、会員に関わるさまざまな情報が集まります。例えば、自治会員情報、入退会情報、会費納入情報、建築協定会員である所有者情報等、約1600戸のさまざまな情報で、それらは情報内容ごとに各々管理されていました。特に年2回の会費徴収においては会計役員が多くの未納の方々に督促するため、一つ一つ手作業で照合・確認する作業が大変です。その上、来期から三菱UFJ銀行からの自動引落としては銀行ではそのサービスを中止することになり、代わりに自治会で引落リストを作成して三菱UFJ銀行に依頼しなければならないシステムに変更されます。会費は銀行引落し、振り込み、持参とさまざまな方法で納入されるのでとても煩雑になります。

よって確実なデータの保全と効率化のため手仕事で行っていた個々の情報管理を、データベース用ソフトを用いて、柏ビレジ専用システムを構築し、一元管理することにしました。この導入により、煩雑な手仕事を劇的に削減できるだけでなく、個人情報保護管理の観点からもセキュリティが高くなります。そして、会計ソフトとリンクさせることでデータの照合作業や間違いもなくなります。ビレジ特有の支部、街区で管理するビレジ版住民台帳のようにデータベースで管理されるので、支部毎の居住戸数現況や世帯主の増減等が一覧ですぐにわかります。空き家情報の把握にも役立ち、あらゆるキーワードで検索もできます。おそらく手作業で煩雑なデータ処理をして下さっていた役員さんの永年の夢が叶ったと言っても過言ではないでしょう。

LINEによる緊急連絡体制



LINE連絡網への登録には、まず、上記のQRコードをスマホで読み取ります。



LINEのユーザー同士で、無料音声通話などができるアプリです。

2019年10月、過去最強クラスの台風19号が関東地方などに豪雨による大規模な河川氾濫をもたらし、全住民への緊急連絡手段がないことに気づきました。緊急事態中に回覧や声がけも難しいため、「LINE(ライン)」による緊急連絡手段を新たに確立しました。これにより、伝言ゲームをすることなく、一斉に正しい情報発信ができるようになりました。

現時点までに、1000人を大幅に超える登録があります。ご自身が登録できなくても、お子様お孫様、友達等に登録していただければ、情報が得られますので、防災・防犯対策などの一助に、是非ご登録をお願いします。

インターネット環境インフラ整備・オンライン会議



写真は遠隔にいる4名と自治会館に集合した8名のハイブリッド・オンライン会議*です。

(*通常の会議とオンライン会議を組み合わせた会議方式)

自治会館では無線LANの電波状況が悪く無線通信が途切れることがあり、オンライン会議に対応できない環境であることが判明しました。また、無線環境の制約によりPCの使用が1Fに限られてしまうので、ネットワーク環境を安定させるために有線LANと無線LANの両方を整備しました。そしてJCOMとNTTの2つのプロバイダーが混在していたのを1つのプロバイダーにまとめ、より多くのネットワーク帯域を使えるようにしました。こうして自治会館では、コロナ禍をきっかけに、IT化が加速され、通常の会議に加え、オンライン会議ができる環境も整えることができました。

■ 柏ビレジの交通対策(第二弾)～柏市地区住民アンケート調査結果から

便利な街づくり

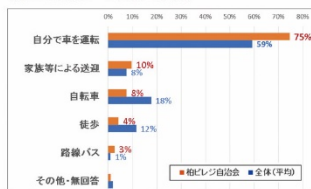
施策担当リーダー 大野 達雄

2020年9月30日に発行した「柏ビレジ未来まちづくりニュース第3号」では、柏ビレジの住民の皆様を対象に「柏ビレジの交通対策～2020年柏ビレジ交通アクセス住民アンケート調査」を実施し、965通の回答(回答率:63.8%)をいただきました。主に柏たなか駅までの新たな交通アクセスの実現に向け必要となる日常の移動実態や新たな交通手段に対する意識調査を目的に実施させていただき支部別の交通手段をはじめ、公共交通の利用状況やオンデマンド交通、コミュニティバスの利用意向などをコメントとともにご紹介しました。今回は柏ビレジの交通対策第二弾として同時配布されました柏市(土木部交通政策課)による「柏市地区住民アンケート調査結果」の概要をご紹介します。当アンケートは、地域の移動手段を検討する上で必要となる、買い物や医療などについての地域における日常の移動実態や交通に関する意識等を把握する目的で実施されたものです。

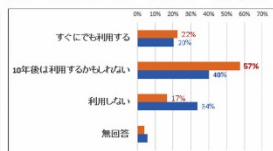
アンケート実施の対象地域は、市内11カ所の公共交通空白不便地域の中から、人口、高齢化率、世帯の状況、商業施設の立地等の評価結果をもとに、ふるさと協議会(富勢・高田・松ヶ崎・永楽台、光が丘・酒井根の各地域)の一部町会が選定されました。別途、当柏ビレジ自治会と市において地域の交通に関する協議を実施していることから、自治会独自の交通に関するアンケートと合わせて市のアンケートも実施することとなりました。この調査で回答した人は、柏ビレジ自治会が939名(回収率:62.1%)、他地域の合計は5,086名(平均回収率:63.8%)でした。性別・年齢別では、柏ビレジが、男性約40%、女性約56%で65歳以上の回答者が約71%、全体の平均では男性約33%、女性約64%、65歳以上の回答者の割合が約49%でした。なお、運転状況に関する質問では「日常的に運転する」(柏ビレジ:約85%、全体平均:約78%)、「月に2～3回程度運転する」(柏ビレジ:約7%、全体平均:約9%)という結果でした。

日常の買い物について

最も利用する交通手段



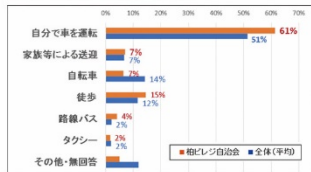
買い物時のバス(有料)利用希望



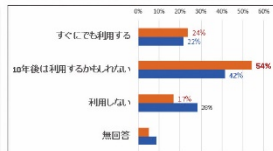
買い物時に「自分で運転する」と回答した方が全体平均で約59%だったのに対して、柏ビレジは約75%と高い割合でした。一方「買い物に行く際、バス(有料)があれば利用するか?」の質問に対しては「すぐにも利用する」と回答した人の割合が、柏ビレジで約22%(全体平均:約20%)でした。また、「10年後は利用するかもしれない」と回答した割合は、全体平均の40%に対して柏ビレジは約57%という結果となり今後の免許返納やバスの利便性を見据えた結果となりました。なお、柏ビレジ住民がよく利用する店舗(複数回答)は、ヨークマート(655件)、マルエツ(363件)、セクション(309件)でした。

普段利用する医療施設について

最も利用する交通手段



通院時のバス(有料)利用希望

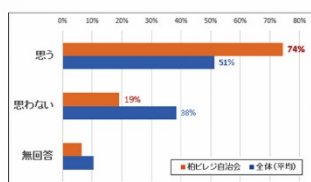


通院時に「自分で車を運転する」方は全体平均で約51%と買い物時に比べ8ポイント減少しています。柏ビレジも同61%と、買い物時に比べ14ポイント減となっています。一方わずかながら、路線バスやタクシーの利用がいずれも1～2ポイント増加しています。また、「病院に行く際、バス(有料)があれば利用するか?」との質問では、「すぐにも利用する」と回答した人の割合が柏ビレジで約24%(全体平均:約22%)でした。更に「10年後は利用するかもしれない」と回答した割合は、全体平均の42%に対して柏ビレジは約54%という結果となりました。なお、柏ビレジ住民がよく利用する医療施設(複数回答)は、柏たなか病院(377件)、柏ビレジクリニック(321件)、柏市立柏病院(223件)でした。

主なコメント(計633件から抜粋)

- 633件の内、「バスの運行頻度」(38%)、「免許返納後の移動手段に困る」(27%)、「店舗」(8%)についてのコメントが上位を占めました。
- ・バスの本数が少なく、最寄りのバス停まで遠いため利用しづらい。また、雨天や暑い日、重い買い物をした時などに不便を感じる。
- ・高齢の為、運転に不安を感じているが、日常の買い物などでバスを利用する場合、バスの本数が少ないので免許返納ができない。
- ・車でないと、買い物等の用足しが不便。ビレジ内に以前のようにスーパーが無く、陸の孤島にいるような気分になる。
- ・マルエツやヨークマートまでは車が必要。徒歩圏内に肉、魚などの生鮮食料品を扱う専門店がなく不便。
- ・もうすぐ運転ができなくなるため、買い物の足も含めて、通院も循環バスのような(医療機関を回る)ものがあると便利だと思う。

町会費負担による地域交通の必要性

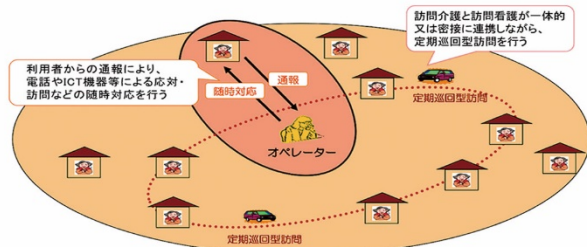


「地域が主体となって運行する交通が必要だと思う」との回答は全体平均で約51%となっており、特に柏ビレジでは約74%と突出した数字となりました。この数字は柏ビレジが抱える公共交通の利便性についての住民の皆さんの素直な実感であり、その深刻さを表わしているものといえます。こうした結果を踏まえ、前号での柏ビレジの交通アンケート調査結果とともに、住民の皆様のご支援・ご協力の下、一日も早く柏ビレジの交通アクセスの改善に向け、柏市との協議を続けてまいります。

■ 柏ビレジに「24時間対応の訪問介護看護サービス」を導入したい（第二弾）

健康な街づくり

施策担当リーダー 森田 幸次



24時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護看護図

（出典：「社保審一介護給付費分科会」）

翌1月22日には、自治会、新樹会、ビレジサポート、はなみずき、アイビーサロンの5団体連名で「第8期柏市高齢者いきいきプラン21(案)パブリックコメント」に、以下の要望事項を踏まえ提出したところ、後日、市より回答をいただきました。

＜要望事項（抜粋）＞ ●柏ビレジ地域では、いきいきプランの理念に共感し、住み続けたいまちづくりの具現化に向けた検討を行っている。●従来から健康寿命の延伸や、助けが必要でも住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを実践してきた。●定期巡回・随時対応型訪問介護看護を本地域に導入することで、第8期プランの政策目標全てが達成されることになるため、早期導入を希望する。

＜柏市からの回答＞

「本市の政策目標にご理解をいただき、さまざまな取り組みを検討されていることに感謝を申し上げます。『定期巡回随時対応型訪問介護看護』を含め、本市で公募等を実施して整備する介護サービス施設につきましては、ニーズを把握した上で必要な整備を図ってまいります。」これを踏まえ、今後とも早期実現に向け活動してまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（お問い合わせ先：森田/morita_c0o2@yahoo.co.jp）



オレンジ散歩開催。柏の葉公園の紅葉を楽しみながら親睦を深めました。

また、「ほくほくセンター」主催の「ビレジオレンジ散歩※」が「柏の葉」に続き「柏ビレジ」でも、この4月から、次の要領で開催（月1回のペース）される予定です。

■ 「ビレジオレンジ散歩」実施要領：

日時：第2水曜日（4月14日）午前10時30分スタート。（所要時間：約1時間）

場所：スタート・ゴールの場所は、はなみずき（柏ビレジ商店街）

雨天決行。但し、散歩以外の趣向を企画します。

※閉じこもりがちな認知症、MCI（軽度認知機能障害）の方や家族と一緒にボランティアがゆっくりと自然を感じる散歩です。参加は、健康な方でも当日10時30分に集合する自由参加方式（「ほくほくセンター」が、4年前にスタートした独自事業）。今後とも、「ほくほくセンター」にご協力をいただき、安心して暮らせるまちづくりに邁進していきます。

（お問い合わせ先：「ほくほくセンター」（04）7140-8818 月～土 8:30～17:15） 介護全般・ボランティアの相談・申込みもできます。

■ 世代の垣根を超えた優しいまちづくりの実現 ～ 柏ビレジグランドデザインについて～

会長 シュビンドラー 千恵子

内閣府が算出したシナリオによると、日本の人口は毎年減少の一途をたどり、2021年1月現在1億2557万人が、2050年には4000万人減の8000万人台に突入することです。しかも、20年後には4割が65歳以上の高齢者、反対に現役世代は4000万人程となり、若者は老人を、文字通り1対1の「肩車」で支えることを強いられることになり、且つ少子化が改善される要素もなく、それぞれの世代の生き方がますます問われていくようです。

柏ビレジもまた、2022年の予想では65歳以上が56%と急速な高齢化や若者人口の減少、住宅の老朽化などさまざまな課題を抱えており、待ったなしです。毎年の役員の選出も既に難しい状況です。そこでこの度未来まちづくり部・活性化プロジェクトでは、こうした課題解決のために、全世代に優しい街を実現するための「グランドデザイン（中長期の全体構想）」案を、独自に打ち出しました。この案の基本方針は、持続可能でより良い世界を目指すSDGs（国際目標）や内閣府、千葉県、柏市の政策を踏まえ、更に柏ビレジ自治会が実施したアンケート結果をはじめ過去の東京大学や筑波大学などと共同で実施したさまざまなアンケート調査結果などをもとにしています。

柏ビレジにおける交通不便、買物不便、子育て不便、増加する介護や住宅建て替え問題等のさまざまな課題を洗い出し、多くの住民の皆様からいただいた貴重なデータをもとに、柏ビレジの目指すべき将来像とその実現に向けた方向性の大枠をまとめたものです。この基本案を来年度の事業計画案として皆様にご提案し、総意をもって柏市へ提出、来期より推進することになっております。柏市や協力企業等とともに住民の皆様にとって永続的に住みよい街になるよう推進して参りますので、更なるご協力をお願いいたします。